

天理市役所 様

土壤肥沃度分析

(SOFIX分析&パターン判定)

報告書

試料名:樫本圃場10987 (T762)試料名:千葉圃場10988 (T763)試料名:前沢圃場10989 (T764)

依頼日:2023/3/15報告日:2023/4/25

判 定: 一般社団法人SOFIX農業推進機構の基準に従う

"" SOFIX (土壌肥沃度指標) - 水田

依頼日:2023/03/15 資料番号:10987(T762)

判定:(一社)SOFIX農業推進機構の基準に従う

試料名: 樫本圃場 (天理市役所様)

実測値および評価

生物性に関する項目(物質循環に関する成分の実測値)

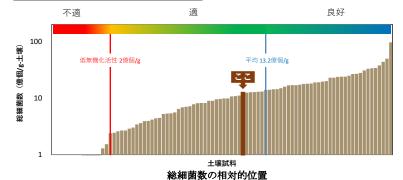
測定項目	単位	推奨値(水田)	実測値	評価
◆総細菌数	(億個/g)	≥6.0	11.8	0
◆アンモニア酸化活性	(点)	≥ 20	14	\downarrow
◆亜硝酸酸化活性	(点)	≧ 60	100	\circ
◆窒素循環活性評価値	(点)	≧30	43	\circ
◆リン循環活性評価値	(点)	40 ∼ 70	39	\downarrow
◆全炭素 (TC)	(mg/kg)	≥ 20,000	18,050	\downarrow
◆全窒素 (TN (N))	(mg/kg)	≥800	1,486	\circ
◆全リン (TP (P))	(mg/kg)	≥ 650	1,037	\circ
◆全カリウム (TK (K))	(mg/kg)	$2,500 \sim 10,000$	2,948	\circ
◆C/N比		20 ~ 30	12	\downarrow
◆C/P比		10 ∼ 20	17	\circ

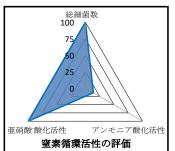
化学性および物理性に関する項目

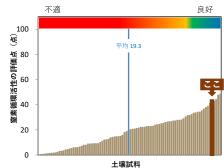
測定項目	単位	推奨値(水田)	実測値	評価
●硝酸態窒素 (乾燥換算)	(mg/kg)	≧10	11	0
●アンモニア態窒素 (乾燥換算)	(mg/kg)	≧10	1	\downarrow
●可給態リン酸				
 P₂O₅換算(乾燥換算) 	(mg/kg)		224	
・P ₂ O ₅ 換算(現状で水分を含む)	(mg/kg)	≥100	150	\circ
・P(現状で水分を含む)	(mg/kg)		66	
●交換性カリウム				
· K ₂ O換算(乾燥換算)	(mg/kg)		84	
K₂O換算(現状で水分を含む)	(mg/kg)	≧100	56	\downarrow
・K (現状で水分を含む)	(mg/kg)		47	
● рН		$6.0 \sim 6.9$	6.2	\circ
●EC	(dS/m)	$0.2 \sim 1.2$	0.06	\downarrow
○含水率	(%)		33	
○最大保水容量	(ml/kg)		945	

●化学性に関する項目、○物理性に関する項目 基準更新:2020年4月

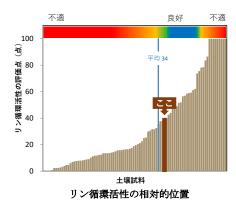








窒素循環活性の相対的位置



依頼日:2023/03/15 資料番号:10987(T762) 判定:(一社)SOFIX農業推進機構の基準に従う

""パターン判定一水田

評価

試料名: 樫本圃場 (天理市役所様)

表1. 土壤肥沃度判定

測定項目	単位	実測値	低	適	高
◆総細菌数	(億個/g)	11.8		≧ 4.5	
◆全炭素 (TC)	(mg/kg)	18,050		≧13,000	
◆全窒素 (TN (N))	(mg/kg)	1,486		650~1500	
◆窒素循環活性評価値	(点)	43		≧15	
◆リン循環活性評価値	(点)	39		20~60	
◆C/N比	-	12	<15		

<パターン2>

評価 <A1>

基本的に良好な土壌環境であるが、有機物がやや蓄積傾向でバランスが悪い

原 因

全炭素量(TC)と全窒素量(TN)の比率が適切でない。C/N比が $15\sim30$ の範囲に改善することが重要である。

土壌の改善を行う場合、上記の各項目が「最適」になるよう、適切な資材選定と施肥・管理を行うことが重要です。具体的な施肥設計をご要望の場合は、当機構までお問い合わせください(有償となります)。

表 2. 植物成長に影響する項目

測定項目	単位	実測値	低	適	高
◆全窒素 (TN (N))	(mg/kg)	1,486		650~1500	
◆全リン (TP (P))	(mg/kg)	1,037		650~3000	
◆全カリウム (TK (K))	(mg/kg)	2,948		2000~10000	

(判定基準)

表 3. 土壌肥沃度判定基準

関連する項目	単位	低い	判定基準値(水田)	高い
◆総細菌数	(億個/g)	<4.5	≧ 4.5	
◆全炭素 [TC]	(mg/kg)	<13,000	≥13,000	
◆全窒素 [TN (N)]	(mg/kg)	<650	650 ~ 1,500	>1,500
◆窒素循環活性評価値	(点)	<15	≥15	
◆リン循環活性評価値	(点)	<20	20 ~ 60	>60
◆C/N比	-	<15	15 ~ 30	>30

※総細菌数・全炭素・全窒素・窒素循環活性評価値は基準値以上が望ましい。 ※リン循環およびC/Nは、基準値以上の場合でも改善が必要である。

表4. 植物成長に影響する項目の判定基準

関連する項目	単位	低い	判定基準値 (水田)	高い
◆全窒素 [TN (N)]	(mg/kg)	<650	650 ~ 1,500	>1,500
◆全リン [TP (P)]	(mg/kg)	<650	650 ~ 3,000	>3,000
◆全カリウム [TK (K)]	(mg/kg)	<2,000	2,000 ~ 10,000	>10,000

※TPおよびTKは、基準値を超えた(高い)場合でも改善が必要である。

日本の水田の土壌は、この基準に照らして、大まかに8つのパターンに分類されます。パターン判定では、ご依頼いただいた土壌のSOFIX分析データに基づいて、どのパターンに該当するかをお示ししています。(表5)(図1)

表5.8パターン分類

	パターン	判定	原因の可能性
1	<特A>	良好な有機土壌環境	非常にバランスのとれた有機環境土壌になっている。適切な管理により維持することが重要である。
2	<a1></a1>	基本的に良好な土壌環境であるが、有機物がや や蓄積傾向でバランスが悪い	全炭素量(TC)と全窒素量(TN)の比率が適切でない。C/N比が15~30の範囲に改善することが重要である。
3	<a2></a2>	基本的に良好な土壌環境であるが、リン循環が適正でない	下記のいずれかの原因が考えられる。 ・総細菌数は十分だが、ミネラル量が多い。 ・総細菌数は十分だが、ミネラル量が少ない。 ・総細菌数は十分だが、全リン(TP)が少ない。 ・総細菌数は十分だがリン循環を担っている細菌数が少ない。 ・pHが適正でない。
4	<b1></b1>	全炭素量(TC)・全窒素量(TN)は十分だが、物質 循環活性が不適正	下記のいずれかの原因が考えられる。 ・微生物の働きが悪い環境にある。 ・総細菌数は十分だが全炭素量(TC)・全窒素量(TN)が少ない、またはそれらのパランスが悪い。 ・総細菌数・全炭素量(TC)・全窒素量(TN)は十分だが、以下の原因が考えられる。 ・p Hが低い。 ・水はけが悪い。 ・ミネラルの過不足等。
5	<b2></b2>	全窒素量(TN)が適切でない	全窒素量(TN)が低い場合、農産物の窒素消費が考えられる。 全窒素量(TN)が高い場合、窒素固定菌の増殖が考えられる。
6	<b3></b3>	総細菌数は十分だが、有機物が不足傾向	化学肥料を用いる化学農法のため、有機物の施肥が少ないと考えられる。
7	<c></c>	有機物量は十分だが、総細菌数が少ない傾向	下記のいずれかの原因が考えられる。 ・全炭素量(TC)と全窒素量(TN)のパランスが悪い。 ・耕耘が十分に行われていない。 ・土壌燻蒸材等の農薬が残留している可能性がある。
8	<d></d>	総細菌数が検出限界以下(n.d. not detected) 6.6×10 ⁶ cells/g 以下である	総細菌数がn.d.であるため、精密診断が必要である。

※1「土壌づくりのサイエンス」誠文堂新光社 P12参照 ※2 微生物は細菌を示している。



SOFIX (土壤肥沃度指標)-畑

依頼日:2023/03/15

資料番号:10988(T763)

判定:(一社)SOFIX農業推進機構の基準に従う

試料名: 千葉圃場 (天理市役所様)

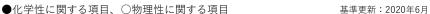
実測値および評価

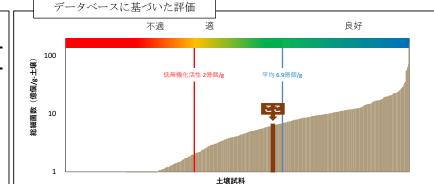
生物性に関する項目(物質循環に関する成分の実測値)

測定項目	単位	推奨値(畑)	実測値	評価
◆総細菌数	(億個/g)	≥6.0	6.2	0
◆アンモニア酸化活性	(点)	≥ 41	2	\downarrow
◆亜硝酸酸化活性	(点)	≥ 70	53	\downarrow
◆窒素循環活性評価値	(点)	≧ 38	19	\downarrow
◆リン循環活性評価値	(点)	$30 \sim 70$	33	\circ
◆全炭素(TC)	(mg/kg)	≥25,000	10,930	\downarrow
◆全窒素(TN(N))	(mg/kg)	≧ 1,500	876	\downarrow
◆全リン(TP(P))	(mg/kg)	≧ 1,300	1,289	\downarrow
◆ 全カリウム(TK(K))	(mg/kg)	$2,500 \sim 10,000$	2,962	\circ
◆C/N比		10 ∼ 20	12	\circ
◆C/P比		8 ~ 20	8	\circ

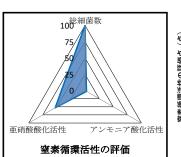
化学性および物理性に関する項目

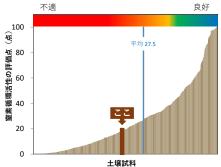
測定項目	単位	推奨値(畑)	実測値	評価
●硝酸態窒素 (乾燥換算)	(mg/kg)	≥ 10	18	0
●アンモニア態窒素 (乾燥換算)	(mg/kg)	≥10	1	\downarrow
●可給態リン酸				
P₂O₅換算(乾燥換算)	(mg/kg)		290	
P₂O₅換算(現状で水分を含む)	(mg/kg)	≥100	231	0
・P(現状で水分を含む)	(mg/kg)		101	
●交換性カリウム				
・K ₂ O換算(乾燥換算)	(mg/kg)		268	
K₂O換算(現状で水分を含む)	(mg/kg)	≥100	213	0
・K(現状で水分を含む)	(mg/kg)		177	
● рН		$5.5 \sim 6.5$	6.0	0
●EC	(dS/m)	$0.2 \sim 1.2$	0.07	\downarrow
○含水率	(%)	≥ 20	20	\circ
○最大保水容量	(ml/kg)	≥ 400	869	0

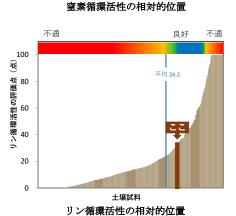




総細菌数の相対的位置







依頼日: 2023/03/15 資料番号: 10988(T763) 判定: (一社)SOFIX農業推進機構の基準に従う

V_V SOFIX分析に基づくパターン判定−畑

評価

試料名: 千葉圃場 (天理市役所様)

表1. 土壤肥沃度判定

測定項目	単位	実測値	低	適	高
◆総細菌数	(億個/g)	6.2		≧2.0	
◆全炭素 (TC)	(mg/kg)	10,930	<12,000		
◆全窒素 (TN (N))	(mg/kg)	876	<1,000		
◆窒素循環活性評価値	(点)	19	<25		
◆リン循環活性評価値	(点)	33		20~80	
◆C/N比	-	12		8~27	

<パターン6>

評価 <B3>

総細菌数は十分だが、有機物が不足傾向

化学肥料を用いる化学農法のため、有機物の施肥が少ないと考えられる。

土壌の改善を行う場合、上記の各項目が「最適」になるよう、適切な資材選定と施肥・管理を行うことが重要です。具体的な施 肥設計をご要望の場合は、当機構までお問い合わせください(有償となります)。

表 2. 植物成長に影響する項目

測定項目	単位	実測値	低	適	高
◆全窒素 (TN (N))	(mg/kg)	876	<1,000		
◆全リン (TP (P))	(mg/kg)	1,289		1000~8000	
◆全カリウム (TK (K))	(mg/kg)	2,962		1500~12000	

(判定基準)

表 3. 土壌肥沃度判定基準

関連する項目	単位	低い	判定基準値 (畑)			高い
◆総細菌数	(億個/g)	<2.0		≧2.0		
◆全炭素 [TC]	(mg/kg)	<12,000		≥ 12,000		
◆全窒素 [TN (N)]	(mg/kg)	<1,000		≥ 1,000		
◆窒素循環活性評価値	(点)	<25		≧25		
◆リン循環活性評価値	(点)	<20	20	~	80	>80
◆C/N比	-	<8	8	~	27	>27

※総細菌数・全炭素・全窒素・窒素循環活性評価値は基準値以上が望ましい。 ※リン循環およびC/Nは、基準値以上の場合でも改善が必要である。

表4. 植物成長に影響する項目の判定基準

関連する項目	単位	低い	判定基準値(畑)	高い
◆全窒素 [TN (N)]	(mg/kg)	<1,000	≧ 1,000	
◆全リン [TP (P)]	(mg/kg)	<1,000	1,000 ~ 8,000	>8,000
◆全カリウム [TK (K)]	(mg/kg)	<1,500	1,500 ~ 12,000	>12,000

※TPおよびTKは、基準値を超えた(高い)場合でも改善が必要である。

日本の畑の土壌は、この基準に照らして、大まかに9つのパターンに分類されます。パターン判定では、ご依頼いただいた土壌の SOFIX分析データに基づいて、どのパターンに該当するかをお示ししています。(表5)(図1)

表 5. 9パターン分類

,	パターン	判定	原因の可能性
1	<特A>	良好な有機土壌環境	非常にバランスのとれた有機環境土壌になっている。適切な管理により維持することが重要である。
2	<a1></a1>	基本的に良好な土壌環境であるが、有機物がや や蓄積傾向でバランスが悪い	全炭素量(TC)と全窒素量(TN)の比率が適切でない。C/N比を10~25の範囲に改善することが重要である。
3	<a2></a2>	基本的に良好な土壌環境であるが、リン循環が適正でない	下記のいずれかの原因が考えられる。 ・総細菌数は十分だが、ミネラル量が多い。 ・総細菌数は十分だが、ミネラル量が少ない。 ・総細菌数は十分だが、全リン(TP)が少ない。 ・総細菌数は十分だがリン循環を担っている細菌数が少ない。 ・pHが適正でない。
4	<b1></b1>	全炭素量(TC)・全窒素量(TN)は十分だが、物質 循環活性が不適正	下記のいずれかの原因が考えられる。 ・微生物の働きが悪い環境にある。 ・総細菌数は十分だが、全炭素量(TC)・全窒素量(TN)が少ない、またはそれらのバランスが悪い。 ・総細菌数・全炭素量(TC)・全窒素量(TN)は十分だが、以下の原因が考えられる。 ・p Hが低い ・水はけが悪い ・ミネラルの過不足等
5	<b2></b2>	全炭素量(TC)は十分だが、全窒素量(TN)が不足 傾向	農産物による窒素の消費、または雨水などによる流出が考えられる。
6	<b3></b3>	総細菌数は十分だが、有機物が不足傾向	化学肥料を用いる化学農法のため、有機物の施肥が少ないと考えられる。
7	<c1></c1>	総細菌数が少なく、循環系が悪い傾向	化学肥料を用いる化学農法のため、有機物の施肥が少ないと考えられる。化学肥料の多用や連作の可能性 が考えられる。
8	<c2></c2>	有機物量は十分だが、総細菌数が少ない傾向	下記のいずれかの原因が考えられる。 ・全炭素量(TC)と全窒素量(TN)のパランスが悪い。 ・耕耘が十分に行われていない。 ・土壌燻蒸材等の農薬が残留している可能性がある。
9	<d></d>	総細菌数が検出限界以下(n.d. not detected) 6.6×10 ⁶ cells/g 以下である	総細菌数がn.d.であるため、精密診断が必要である。

※1「土壌づくりのサイエンス」誠文堂新光社 P12参照 ※2 微生物は細菌を示している。



SOFIX (土壤肥沃度指標)-畑

依頼日:2023/03/15

資料番号:10989(T764)

判定:(一社)SOFIX農業推進機構の基準に従う

試料名: 前沢圃場 (天理市役所様)

実測値および評価

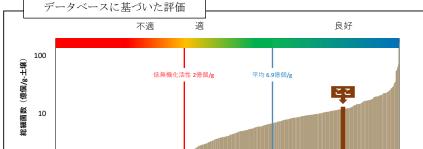
生物性に関する項目(物質循環に関する成分の実測値)

測定項目	単位	推奨値(畑)	実測値	評価
◆総細菌数	(億個/g)	≧6.0	12.1	0
◆アンモニア酸化活性	(点)	≥ 41	6	\downarrow
◆亜硝酸酸化活性	(点)	≥ 70	89	\circ
◆窒素循環活性評価値	(点)	≧38	34	\downarrow
◆リン循環活性評価値	(点)	30 ∼ 70	22	\downarrow
◆全炭素(TC)	(mg/kg)	≥ 25,000	15,240	\downarrow
◆全窒素(TN(N))	(mg/kg)	≧ 1,500	1,181	\downarrow
◆全リン(TP(P))	(mg/kg)	≧ 1,300	955	\downarrow
◆ 全カリウム(TK(K))	(mg/kg)	$2,500 \sim 10,000$	1,641	\downarrow
◆C/N比		10 ∼ 20	13	\circ
◆C/P比		8 ~ 20	16	\circ

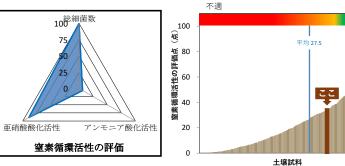
化学性および物理性に関する項目

測定項目	単位	推奨値(畑)	実測値	評価
●硝酸態窒素 (乾燥換算)	(mg/kg)	≥10	7	\downarrow
●アンモニア態窒素 (乾燥換算)	(mg/kg)	≥ 10	2	\downarrow
●可給態リン酸				
P₂O₅換算(乾燥換算)	(mg/kg)		210	
・P ₂ O ₅ 換算(現状で水分を含む)	(mg/kg)	≥ 100	133	\circ
・P(現状で水分を含む)	(mg/kg)		58	
●交換性カリウム				
 K₂O換算(乾燥換算) 	(mg/kg)		38	
K₂O換算(現状で水分を含む)	(mg/kg)	≥ 100	24	\downarrow
・K(現状で水分を含む)	(mg/kg)		20	
● рН		$5.5 \sim 6.5$	5.2	\downarrow
●EC	(dS/m)	$0.2 \sim 1.2$	0.04	\downarrow
○含水率	(%)	≥ 20	37	0
○最大保水容量	(ml/kg)	≥ 400	984	\circ

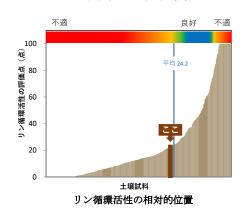
●化学性に関する項目、○物理性に関する項目 基準更新:2020年6月



土壌試料 総細菌数の相対的位置



窒素循環活性の相対的位置



依頼日: 2023/03/15 資料番号: 10989(T764) 判定: (一社)SOFIX農業推進機構の基準に従う

∨∨ SOFIX分析に基づくパターン判定−畑

評価

試料名: 前沢圃場 (天理市役所様)

表 1. 土壤肥沃度判定

測定項目	単位	実測値	低	適	高
◆総細菌数	(億個/g)	12.1		≧2.0	
◆全炭素 (TC)	(mg/kg)	15,240		≧12,000	
◆全窒素 (TN (N))	(mg/kg)	1,181		≧1,000	
◆窒素循環活性評価値	(点)	34		≧25	
◆リン循環活性評価値	(点)	22		20~80	
◆C/N比	-	13		8~27	

<パターン1>

-評価 <特A>

良好な有機土壌環境

非常にバランスのとれた有機環境土壌になっている。適切な管理により維持することが重要である。

土壌の改善を行う場合、上記の各項目が「最適」になるよう、適切な資材選定と施肥・管理を行うことが重要です。具体的な施 肥設計をご要望の場合は、当機構までお問い合わせください(有償となります)。

表 2. 植物成長に影響する項目

測定項目	単位	実測値	低	適	高
◆全窒素 (TN (N))	(mg/kg)	1,181		≧1,000	
◆全リン (TP (P))	(mg/kg)	955	<1,000		
◆ 全カリウム (TK (K))	(mg/kg)	1,641		1500~12000	

(判定基準)

表 3. 土壌肥沃度判定基準

関連する項目	単位	低い	判	定基準値((畑)	高い
◆総細菌数	(億個/g)	<2.0		≥2.0		
◆全炭素 [TC]	(mg/kg)	<12,000		≧12,000)	
◆全窒素 [TN (N)]	(mg/kg)	<1,000		≥1,000		
◆窒素循環活性評価値	(点)	<25		≧25		
◆リン循環活性評価値	(点)	<20	20	~	80	>80
◆C/N比	-	<8	8	~	27	>27

※総細菌数・全炭素・全窒素・窒素循環活性評価値は基準値以上が望ましい。 ※リン循環およびC/Nは、基準値以上の場合でも改善が必要である。

表4. 植物成長に影響する項目の判定基準

関連する項目	単位	低い	判定基準値(畑)	高い
◆全窒素 [TN (N)]	(mg/kg)	<1,000	≧ 1,000	
◆全リン [TP (P)]	(mg/kg)	<1,000	1,000 ~ 8,000	>8,000
◆全カリウム [TK (K)]	(mg/kg)	<1,500	1,500 ~ 12,000	>12,000

※TPおよびTKは、基準値を超えた(高い)場合でも改善が必要である。

日本の畑の土壌は、この基準に照らして、大まかに9つのパターンに分類されます。パターン判定では、ご依頼いただいた土壌の SOFIX分析データに基づいて、どのパターンに該当するかをお示ししています。(表5)(図1)

表 5. 9パターン分類

,	パターン	判定	原因の可能性
1	<特A>	良好な有機土壌環境	非常にバランスのとれた有機環境土壌になっている。適切な管理により維持することが重要である。
2	<a1></a1>	基本的に良好な土壌環境であるが、有機物がや や蓄積傾向でバランスが悪い	全炭素量(TC)と全窒素量(TN)の比率が適切でない。C/N比を10~25の範囲に改善することが重要である。
3	<a2></a2>	基本的に良好な土壌環境であるが、リン循環が適正でない	下記のいずれかの原因が考えられる。 ・総細菌数は十分だが、ミネラル量が多い。 ・総細菌数は十分だが、ミネラル量が少ない。 ・総細菌数は十分だが、全リン(TP)が少ない。 ・総細菌数は十分だがリン循環を担っている細菌数が少ない。 ・pHが適正でない。
4	<b1></b1>	全炭素量(TC)・全窒素量(TN)は十分だが、物質 循環活性が不適正	下記のいずれかの原因が考えられる。 ・微生物の働きが悪い環境にある。 ・総細菌数は十分だが、全炭素量(TC)・全窒素量(TN)が少ない、またはそれらのバランスが悪い。 ・総細菌数・全炭素量(TC)・全窒素量(TN)は十分だが、以下の原因が考えられる。 ・p Hが低い ・水はけが悪い ・ミネラルの過不足等
5	<b2></b2>	全炭素量(TC)は十分だが、全窒素量(TN)が不足 傾向	農産物による窒素の消費、または雨水などによる流出が考えられる。
6	<b3></b3>	総細菌数は十分だが、有機物が不足傾向	化学肥料を用いる化学農法のため、有機物の施肥が少ないと考えられる。
7	<c1></c1>	総細菌数が少なく、循環系が悪い傾向	化学肥料を用いる化学農法のため、有機物の施肥が少ないと考えられる。化学肥料の多用や連作の可能性 が考えられる。
8	<c2></c2>	有機物量は十分だが、総細菌数が少ない傾向	下記のいずれかの原因が考えられる。 ・全炭素量(TC)と全窒素量(TN)のパランスが悪い。 ・耕耘が十分に行われていない。 ・土壌燻蒸材等の農薬が残留している可能性がある。
9	<d></d>	総細菌数が検出限界以下(n.d. not detected) 6.6×10 ⁶ cells/g 以下である	総細菌数がn.d.であるため、精密診断が必要である。

※1「土壌づくりのサイエンス」誠文堂新光社 P12参照 ※2 微生物は細菌を示している。